

矢吹町地球温暖化対策実行計画  
(区域施策編)  
概要版

令和6年3月

矢 吹 町

## 1 計画の基本的事項

### 計画策定の趣旨

「矢吹町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」は、矢吹町域から排出される温室効果ガス排出量の削減に向け、本町の現状や地域特性を踏まえ、町・町民・事業者等の各主体の割合に応じた取り組みを総合的かつ計画的に推進していくことを目的としています。

### 計画の期間及び目標年度

計画の期間	2024(令和6)年度～2030(令和12)年度
基準年度	2013(平成25)年度
目標年度	2030(令和12)年度
長期目標年	2050(令和32)年

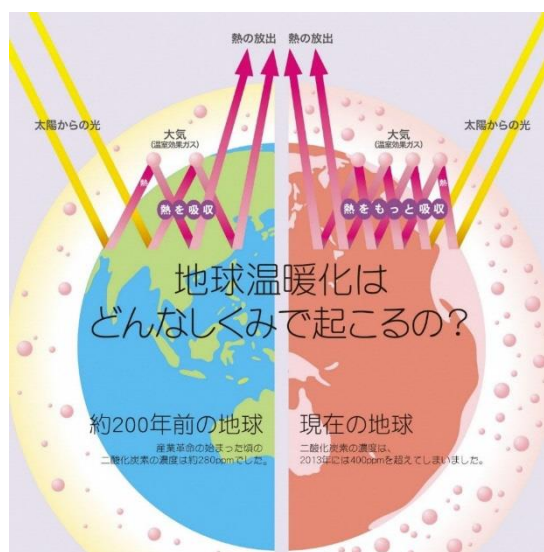
## 2 地球温暖化のメカニズム

### (1) 地球温暖化のメカニズム

私たちが生活する地球は、太陽からの放射エネルギーで温められる一方、この温められた熱エネルギーを宇宙空間に放出しています。

地球を覆う大気は、さまざまな成分からなっていますが、このうち、地球からの熱の放出を防いでいるのが「温室効果ガス」です。温室効果ガスには、二酸化炭素やメタン、フロンなどがあり、地球を温かく保ち、私たちが住みやすい環境を作る役割があります。

現在の地表の平均気温は約14℃に保たれていますが、大気中の温室効果ガスが増えすぎると、宇宙へ放射される熱が温室効果ガスに吸収されることにより地上の気温が上昇し、地球全体の気候が変化します。これが「地球温暖化」です。



出典) 全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト  
(<https://www.jccca.org/>)

### (2) 地球温暖化の影響

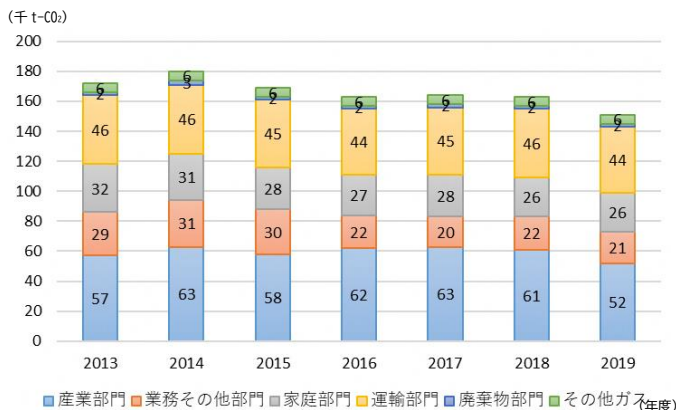
地球温暖化に伴う気候変動は、人間の生活や自然の生態系にさまざまな影響を与えており、氷河の融解や海面水位の変化、洪水や干ばつの増加、動植物の分布域の変化、農作物の品質低下、熱中症リスクの増加など、気候変動及びその影響が各地で観測されています。

今後、地球温暖化の進行に伴い、気候変動の影響の拡大が予想されることから、「地球温暖化の進行を抑制する取組(緩和策)」だけでなく、「気候変動の影響を回避・軽減する取組(適応策)」についても実施する必要があります。

### 3 温室効果ガス排出量の現状

本町の2019(令和元)年度における温室効果ガス排出量は、15万1300トン(CO<sub>2</sub>換算)(以下 t-CO<sub>2</sub>と記載)であり、基準年度の2013(平成25)年度の排出量(17万3000t-CO<sub>2</sub>)と比較して、2万1700t-CO<sub>2</sub>(約13%)削減しています。

また、全体の排出量は、産業部門と運輸部門の影響を大きく受けています。



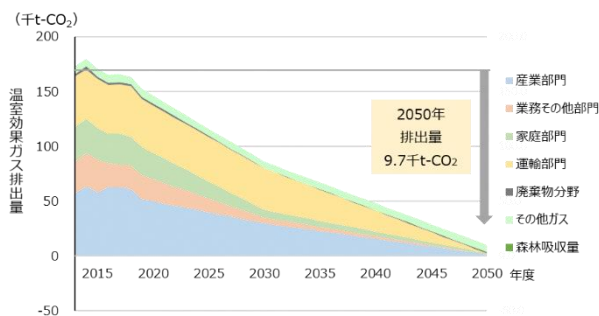
#### ◆温室効果ガスの排出部門の概要◆

- 産業部門：農林水産業、鉱業、建設業、製造業のエネルギー消費由来
- 業務部門：サービス業(店舗・事務所等)のほか、他のいずれの部門にも帰属しないエネルギー消費由来
- 家庭部門：住宅(家庭)のエネルギー消費由来
- 運輸部門：自動車、鉄道のエネルギー消費由来
- 廃棄物部門：一般廃棄物の焼却由来等

### 4 温室効果ガス削減目標

本計画では、2030(令和12)年度における温室効果ガス排出量を 2013(平成25)年度比で50%削減を目標として設定します。

また、長期目標年である2050年においては、対策を講じても残存する温室効果ガスについて、森林吸収による削減や、暮らしや経済活動に必要なエネルギー源をCO<sub>2</sub>を排出する石油や石炭、ガスなどの化石燃料から電力に置き換える「電化」を推進するなどの取り組みを進めていくことでの温室効果ガス排出量実質ゼロとする「脱炭素社会の実現」を目標とします。



温室効果ガス排出量の2030(令和12)年度の削減目標

**2013(平成25)年度比50%減とする**

温室効果ガス排出量の2050年の削減目標

**温室効果ガス排出量実質ゼロの  
「脱炭素社会」の実現**

## 5 温室効果ガス排出量削減のための取り組み

温室効果ガス排出量の削減目標の達成に取り組むために、5つの基本目標を掲げます。

# 基本目標

1 省エネルギーの推進

2 再生可能エネルギー導入・利用促進

3 脱炭素型まちづくりの推進

4 循環型社会の推進

5 脱炭素社会に向けた環境づくり



～2050年の矢吹町～

## 基本目標1 省エネルギーの推進



### ●進行管理指標

指標	現状	目標
	2019年	2030年
町域のエネルギー消費量	1,470TJ	1,405TJ
家庭部門における一人当たりの温室効果ガス排出量	1,497kg-CO <sub>2</sub>	417kg-CO <sub>2</sub>

### 町の取組

#### 省エネルギー機器等の導入推進

- ・省エネルギー機器の購入補助制度の拡充、情報提供及び町有施設の率先導入

#### 省エネルギー建築の推進

- ・ZEH、ZEB 化の普及啓発及び町有施設の ZEB 化の推進

#### 省エネルギー行動の普及

- ・デコ活アクションの実施や省エネポイント化事業による省エネ機器導入促進

### 町民の取組

#### 町民のライフスタイルの転換

- ・デコ活アクションの実施及びエネルギー使用量の可視化の検討

#### 住宅の省エネルギー化、省エネルギー機器の導入

- ・エネルギー利用効率の高い機器の購入や住宅の ZEH 及び断熱化の検討

### 事業所の取組

#### 事業所における省エネルギー活動

- ・「環境マネジメントシステム」を通じた環境に配慮した取り組みの実施
- ・働き方の見直しによる地球温暖化対策の推進

#### 建築物の省エネルギー化・省エネルギー機器の導入

- ・高効率機器への切り替え及び ZEB 化の推進や省エネリフォームの検討

## 基本目標2 再生可能エネルギー導入・利用促進



### ●進行管理指標

指標	実績		目標	
	直近年度	実績値	目標年度	目標値
公共施設(土地含む)における再生可能エネルギーの設置箇所数(自家消費)	2023	2箇所	2030	7箇所
太陽光発電システム補助件数(累計)	2023	422件	2030	580件

## 町の取組

### 再生可能エネルギーの導入促進

- ・再生可能エネルギーの導入補助制度の拡充、情報提供
- ・町有施設における再生可能エネルギーの利用

### 省エネルギー建築の推進

- ・ZEH、ZEB 化の普及啓発
- ・町有施設の ZEB 化の推進

### 省エネルギー行動の普及

- ・デコ活アクションの実施
- ・省エネポイント化事業による省エネ機器導入促進

## 町民の取組

### 太陽光発電等の導入

- ・住宅等への太陽光発電設備、家庭用燃料電池システム(エネファーム)などの導入、ZEH 検討

### 再生可能エネルギーの利用促進

- ・再エネ電力メニューへの切り替えの検討

## 事業所の取組

### 太陽光発電等の導入

- ・太陽光発電などの再生可能エネルギー機器の導入検討
- ・蓄電池の検討及びピークカットによる電力消費の抑制
- ・PPA など、再生可能エネルギーの導入を促進する事業の検討

### 再生可能エネルギーの利用

- ・再エネ電力メニューや温室効果ガス排出量の少ない燃料への切り替えの検討
- ・ZEB 化の推進及び省エネリフォームの検討

## 基本目標3 脱炭素型まちづくりの推進



### ●進行管理指標

指標	実績		目標	
	直近年度	実績値	目標年度	目標値
EV スタンドの設置基数	2022	3 基	2030	6 基
町民 1 人あたりの町内バス利用回数 (=年間の町運営公共交通利用回数/人口総数)	2023	0.11 回/年	2030	2.20 回/年

## 町

### 環境にやさしい交通の推進

- ・次世代自動車の導入費補助制度の検討、EV ステーションの導入促進
- ・エコドライブの推進
- ・公共交通機関の利便性向上

### エネルギーの地産地消及び防災力強化

- ・地域新電力の設立
- ・エネルギーの地産地消のため、FIT 制度終了後の電力連携の検討
- ・公共施設や避難所等に太陽光発電設備と蓄電池の一体的な導入検討
- ・地域新電力、農商工連携による地域振興事業の立ち上げの検討

## 町民

### 環境にやさしい交通の推進

- ・次世代自動車の導入検討及びエコドライブの実施
- ・自転車や徒歩、コミュニティバス等の公共交通機関の積極的な利用

## 事業所

### 環境にやさしい交通の推進

- ・次世代自動車の導入検討及びエコドライブの実施
- ・近距離の際は、自転車や徒歩などでの移動

## 基本目標 4 循環型社会の推進



### ●進行管理指標

指標	実績		目標	
	直近年度	実績値	目標年度	目標値
1人1日あたりのごみの排出量	2021	539g/人日	2030	455g/人日
町内のリサイクル率	2021	12.2%	2030	15%

## 町

### ごみの減量化・資源化の推進

- ・3R 活動を中心としたごみの減量化の推進及び生ごみ処理機等の購入補助制度の拡充
- ・プラスチックごみの排出抑制・リサイクルの促進
- ・「もったいない！ 食べ残しゼロ推進運動」による食品ロスを削減

## 町民の取組

### ごみの減量化・資源化

- ・「もったいない」意識をもったライフスタイルを心掛け、ごみの減量化・資源化を実施
- ・環境負荷の少ない製品やリターナブル製品などの積極的利用

### 食品ロス対策

- ・食品を購入する際の「てまえどり」や飲食時の食べきりなどを心掛け、食品ロスを削減

## 事業所の取組

### ごみの減量化・資源化

- ・廃棄物の排出量削減やリサイクルの実施
- ・廃棄物系バイオマスの利活用の検討

### 食品ロス対策

- ・食品ロスの削減やフードドライブの実施・協力
- ・食べきりの促進に向けた取り組みを実施

## 基本目標 5 脱炭素社会に向けた環境づくり



### ●進行管理指標

指標	実績		目標	
	直近年度	実績値	目標年度	目標値
広報や SNS 等を活用した環境保全に関する情報提供回数	-	-	2030	4 回/年
環境保全に関するイベント開催	2023	1 回/年	2030	3 回/年

## 町の取組

### 環境教育・環境学習及び情報発信

- ・広報や SNS 等を活用した環境情報の提供と情報収集
- ・学校等を通じて「家庭での環境保全活動の推進」を目的とした学習の推進
- ・子どもから高齢者まで、各世代に応じた教育や環境学習の機会の提供
- ・事業者と連携し、環境保全イベントの開催や工場見学等を通じた環境学習の機会の提供

### 環境意識の啓発

- ・食材の地産地消の推奨
- ・環境意識向上及び環境学習の機会の提供

### デジタル技術の活用による脱炭素化の推進

- ・電子申請サービスなどの行政手続きや業務のデジタル化の実施
- ・業務のデジタル化にあわせてセキュリティ対策の徹底



## 町民の取組

### 環境教育、環境保全活動への積極的参加

- ・環境保全活動を目的とした学習や地域イベントに積極的に参加
- ・行政手続きにおける電子申請の利用

## 事業所の取組

### 環境教育、環境保全活動への取り組み

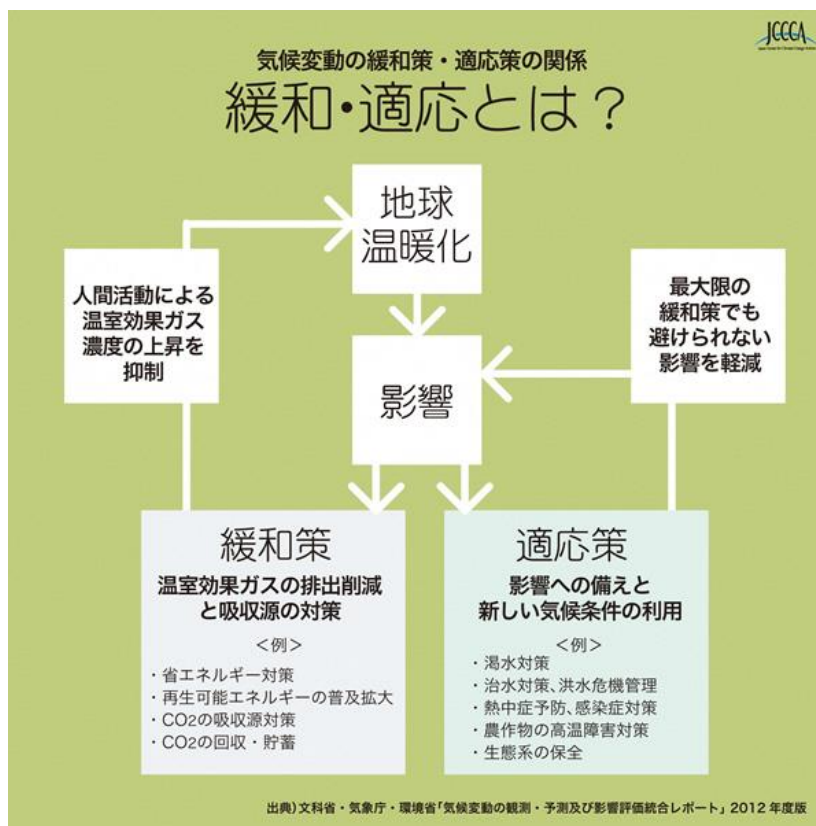
- ・職場における環境情報の提供及び環境保全活動の実施
- ・地域イベントへ積極的に参加

### デジタル技術の活用による脱炭素化の推進

- ・テレワークや Web 会議の活用など、エネルギー活動の少ない働き方や事業活動の実施
- ・事業における DX 化に関する情報収集を行い、積極的な導入の検討

## 6 気候変動への適応

今後の地球温暖化対策は、引き続き「緩和策」を進めることも重要ですが、顕在化してきている気候変動への「適応策」も併せて進めていく必要があります。本計画では、「適応策」を推進し、気候変動の悪影響軽減に取り組みます。



## 町

### 町の取組

1. 農業
  - ・品質低下や生育障害等への対策
  - ・気候変動の影響による農作物被害の回避・軽減対策に対する支援及び病虫害防除
2. 水環境・水資源
  - ・最新の科学的な知見等の把握に努め、適宜対策を講じる
3. 自然生態系
  - ・県や関係機関と連携を図り、情報収集を行う
4. 自然災害
  - ・「矢吹町地域防災計画」に基づき、大規模災害発生時の被害軽減及び防災対策を行う
5. 健康
  - ・熱中症対策及び感染症の発生の予防、まん延防止のため、予防対策及び注意喚起を行う
6. 産業・経済活動
  - ・災害時に必要に応じて帰宅困難者を一時滞在施設に誘導する
  - ・気候の変化に適応した観光商品の開発やイベント開催方法等を検討し、地域観光振興を推進
7. 町民生活・都市生活
  - ・防災中枢機能を果たす施設・設備等の充実及び自家発電等の設備や蓄電システムの検討

### 町民

#### 町民の取組

- ・見慣れない外来生物や身近な生態系などの変化について町へ情報提供を行う
- ・災害情報や熱中症、感染症などの情報収集に努める
- ・熱中症対策を実施

### 事業所

#### 事業所の取組

- ・自然災害発生時に建物の倒壊・破損や倒木などが起こらないよう点検を行う
- ・事業活動中の熱中症対策の実施
- ・企業としての「適応策」を検討

## 矢吹町地球温暖化対策実行計画 区域施策編(概要版)

発行・編集 矢吹町役場 まちづくり推進課

TEL 0248-42-2112

URL <https://www.town.yabuki.fukushima.jp>